

福井・福井城跡(2)

所在地 福井市宝永三丁目

2 調査期間 一九九四年(平6)六月～九月

3 発掘機関 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

4 調査担当者 本多達哉・河村健史

5 遺跡の種類 城郭跡(武家屋敷地)

6 遺跡の年代 中世末～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査は、国際交流会館建設工事に伴うものである。遺跡は、福井平野の中央部、足羽川の北側に位置する。調査地は、福井城の北方、

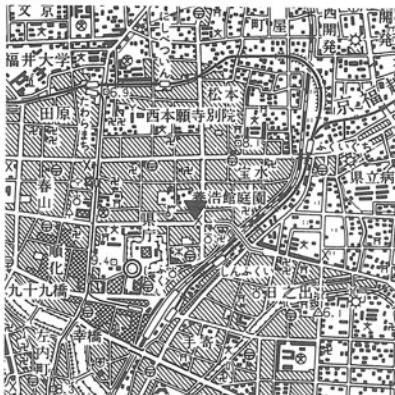
三ノ丸門外に位置し、江戸

時代を通じて二〇〇石クラスの武家屋敷地であった。

確認された遺構は、福井城

時代のものと福井城以前

(一六世紀末)のものに大別される。福井城時代の遺構は一七世紀初頭、一七世紀後半、一九世紀の各期に



(福井)

集中する。

木簡は、ゴミ廃棄土坑一七九・一三〇と屋敷地を区画すると考えられる溝一一から出土しており、特に土坑一七九からは大量に出土している。一一つの土坑の年代は、出土する陶磁器より、双方とも一七世紀後半と考えられる。土坑一三〇は遺物の廃棄状態が、火災などの後始末時と似ており、遺物は二次焼成を受けていないものの、天守閣も焼亡した「寛文の大火」(一六六九年)や廢藩の危機に直面した「貞享の大法」(一六八五年)などの大事件・災害に関わり廃棄されたものと考えられるが、どの事件かは特定し得ない。また、溝一二からは幕末～明治頃の陶磁器も出土しており、この溝の廃絶時に混入したと考えられる。

木簡は土坑一七九から四〇点、土坑一三〇から三〇点、溝一一から一点の、計四四点が出土した。

8 木簡の艸文・内容
土坑一七九

(1) 「しろ」しむの」

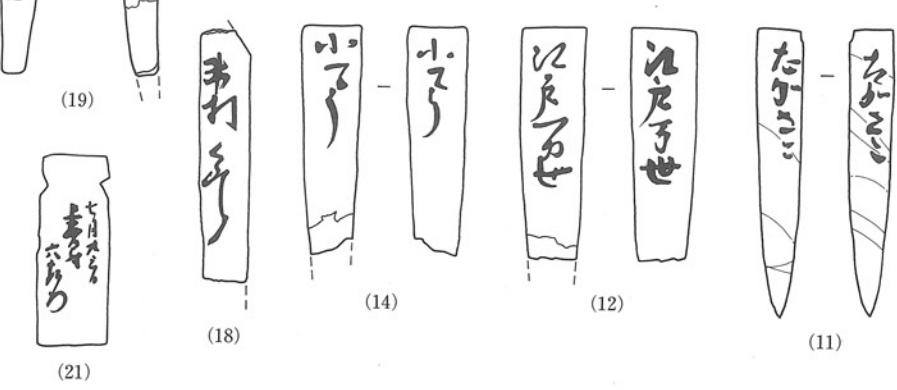
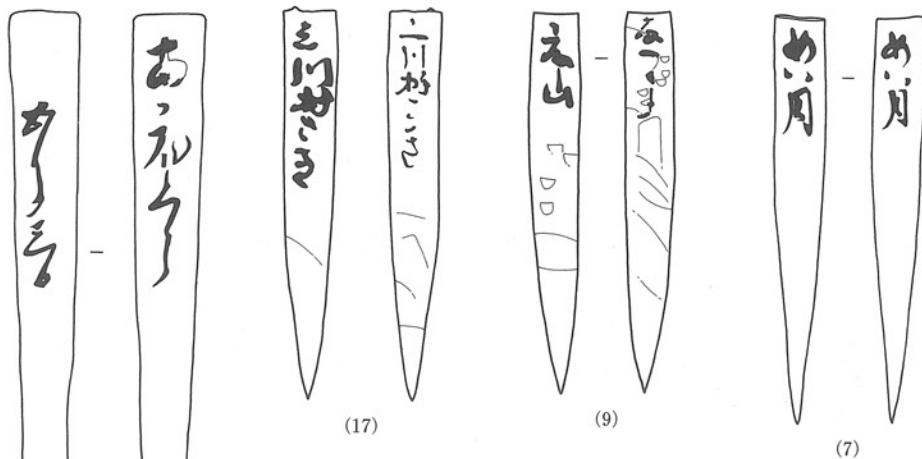
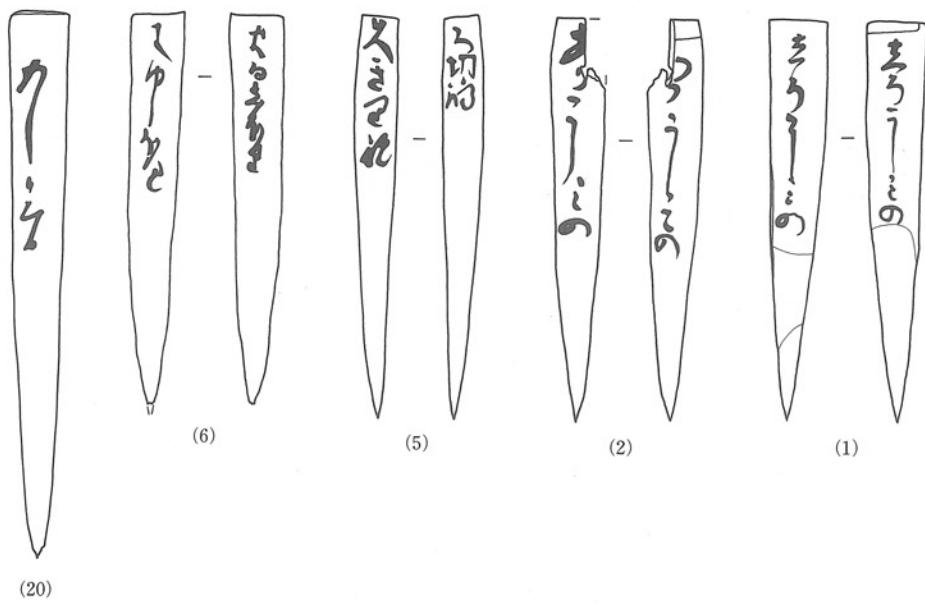
・「しろ」しむの」

・「あ〔か〕しむの」

・「あ〔か〕しむの」

1999年出土の木簡

(3)	・「あ□□□り」 ・「あ□□□り」	126×18×3 051	(11)	・「たかや」と ・「たかや」と	94×15×2 051
(4)	・「大切嶋」		(12)	・「江口万世」	
(5)	・「大切嶋」 ・「大切嶋」	(54)×15×2 019	(13)	・「江口万世」	(76)×22×3 019
(6)	・「はるしほり」	131×14×3 051	(14)	・「□」	101×12×3 051
(7)	・「めう月」 ・「めう月」	(127)×18×3 051	(15)	・「小山」	
(8)	・「めう月」 ・「めう月」	133×16×3 051	(16)	・「ふわ入」	
(9)	・「なつやま」 ・「夏山」	103×11×4 051	(17)	・「ふわ入」 ・「三□ ^{〔村ガ〕} 」	(100)×11×4 051
(10)	・「なつ□」 ・「なつやま」	125×17×3 051		・「三□ ^{〔村ガ〕} 」	128×17×3 051
(18)	▽末村□□部	(83)×(17)×3 039			
	109×11×3 051				



土坑11三〇

(19) ・「あ□□へら

・「五月三日」

(206) ×24×3 051
181×20×3 051

(20) 「五月三日」

溝一一一

(21) 「▽七月廿三日

上安田村
六左衛門」

64×24×4 032

土坑一七九出土の木簡は(18)を除き、完形のものはすべて下端を尖らせた○五一型式で、物品名らしい文字を書くが、何の名称なのかは未詳。
なお釈文は、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館の佐藤圭氏の教示を得た。

9 関係文献

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター『年報一〇』(一九九六年)
(本多達哉・河村健史)

石川・觀法寺遺跡

かんぱうじ

1 所在地 石川県金沢市觀法寺町

2 調査期間 一九九九年(平11)五月～八月

3 発掘機関 (財)石川県埋蔵文化財センター

4 調査担当者 松浦郁乃・荒木麻理子

5 遺跡の種類 集落及び道路跡

6 遺跡の年代 三世紀・八世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本遺跡は、金沢市の北東部に位置する。北西方向には河北潟が広がり、北は能登、東は低い丘陵地帯を越えると富山県となる。後背

丘陵上には觀法寺古墳群、

その谷部には中世の觀法寺谷遺跡が所在する。周辺の

同時期の遺跡としては、北方約八〇〇mに七世紀末～八世紀前半の今町A遺跡が所在する。

今回は、約二五〇〇m²について調査を行なった。そ



(金沢)